

日吉台地下壕保存の会

会報

第11号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

〒223

横浜市港北区下田町3-15-27

☎ 045-562-1282 (寺田貞治方)



第3回総会で「謀略秘密基地・登戸研究所の謎を追う」のテーマで記念講演をして頂いている法政二高の渡辺賢二先生

目 次	頁
○会の存在を大切に	1
○第3回総会報告	2
○1990年度活動報告	2
○1990年度決算報告書	3
○1990年度決算報告説明書	4
○1991年度予算	5
○第3回総会アピール	6
○1991年度運営委員・会計監査・顧問	7
○1991年度活動方針	7
○1991年度会費納入についてのお願い	8
○編集後記	8

△△の存在を大切に

会長 永戸多喜雄

日本帝国時代の装いを引き継いで、旭日をかたどつた軍艦旗をひるがえした掃海艇隊が、軍艦マーチに送られてペルシャ湾に向かつた。どんなに小規模なものであつても、あの軍艦旗を掲げた艦団が目の前に出現したら、太平洋戦争の悪夢を思い起こさずにはいられない人々が、東南アジアはもちろん、この日本だけつて沢山生き残つてることを、企画演出に当たつた連中は知らないのであらうか。そんな苦はない。彼らがあちこちに代表を送つて、いやいやながら、戦争中にかけた迷惑を詫びるふりをしたのを見ても、彼らの意図は明白である。国民を愚弄し、開会中の国会の審議にもかけず、閣議決定だの、政令だのという便法を使つて、他にもすることが幾らでもあるとのに、ことさらに掃海艇隊を送り出したのは、軍艦旗で識別される海上自衛官船をペルシャ湾に見参させるためだとしか思われない。このようなことが白昼堂々と行われるのは、主権在民という思想が欠落した独裁政治そのものといわなければならぬ。

私達が日吉台地下壕保存の運動を静かに進めている今、私達を取り巻く日本の社会はおかかしな方向に横滑りをはじめているらしい。この会が三年目の活動にはいるに当たつて、私達は初心を確かめながら、会の存在を大事に守つて行きたいのである。

第三回総会

報告

7、一九九一年度予算案

一九九〇年度
活動報告

説明

6、7の活動方針案、

予算案の質疑応答及び承認

大会アッピールの採択と承認

9、10、新会長挨拶

五、議長解任

六、閉会の辞

午後二時四〇分

記念講演

テーマ：「謀略秘密基地・登戸研究所の謎を追う」

講師：法政大学 第二高等学校教諭 渡辺駿

時間：午後三時四〇分

二、開会の辞

会長挨拶

三、議長選出

四、議事

五、一九九〇年度活動報告

六、一九九〇年度会計報告

七、一九九〇年度会計監査報告

八、一九九一年度運営委員会の質疑応答及び承認

九、一九九一年度運営委員会の承認

十、一九九一年度活動方針案の承認

十一、一九九一年度活動方針案の承認

十二、一九九一年度活動方針案の承認

十三、一九九一年度活動方針案の承認

十四、一九九一年度活動方針案の承認

十五、一九九一年度活動方針案の承認



会結成から早くも二年が過ぎました。一九九〇年度の活動も、活動報告書にもありますように、様々な活動をして参りました。これも会員の方々の御支援と御協力の賜と厚く感謝申し上げます。

会員の数も、この一年間で一〇〇名近く増え、現在三三九名となりました。会報も、第六号から第一〇号まで五回、順調に発行することができました。会員の方々からの寄稿も多く、増ページになつたこともあります。幹事会は七回それぞれ開催されました。運営委員会は二回、幹事会は七回それぞれ開催され、保存の会の推進力として大きな力を發揮しました。

これはもつと多く様々な行事を取り入れて会員に向かって活動を活発化する必要があるのではないかと思います。しかし、地下壕の見学会は、地元小中学校PTA・教職員、地区センター、区社会教育課などの団体の申し込みが多く、全体で八回行いました。日吉台地下壕に対する関心は非常に高く、毎回定員以上の申込があり、早く締め切つたり、抽選をしたりしている状況です。見学の感想文では、地下壕をぜひ保存してほしいという声が非常に多く寄せられています。

マスコミ関係では、この一年間にも日吉台地下壕と保存の会の事が度々取り上げられ、神奈川新聞、朝日新聞、「ニュースの森」でも放映されたりしました。調査活動では、この一年見学会一回と、市ヶ谷の地下壕見学会一回だけでした。

1990年度決算報告書

(単位は円)

	1989年度決算 1989.4.8-1990.3.23	1990年度予算 1990.3.24-1991.4.2	1990年度決算 1990.3.23-1991.4.2
収入の部			
会費	283000	247000	337500
カンパ	47460	0	19000
利息			11163
繰越金	0	186303	186303
合計	330460	433303	553966
支出の部			
会議費	16069	20000	1280
事務費	10025	20000	26952
印刷費	20635	30000	32475
通信費	68949	100000	72999
資料費	14192	100000	3860
謝礼	14287	50000	5961
予備費		113303	0
合計	144157	433303	143527
差引残高			
計	186303	0	410439

以上の通り報告します。

日吉台地下壕保存の会事務局長 寺田貞治 印

1991年4月6日

この報告により収支を監査したところ適正に処理されていることを認めます。

会計監査 森山高行 印

会計監査 天野喬子 印

1990年度決算報告説明書

収入の部

会費

		1989年度		1990年度	
	口数	人 数	合 計	人 数	合 計
500円	1	10	5000円	3	1500円
1000円	1	229	229000円	218	218000円
1000円	2	4	8000円	26	52000円
1000円	3	3	9000円	12	36000円
1000円	5	1	5000円	4	20000円
1000円	6	1	6000円		
1000円	10			1	10000円
1000円	11	1	11000円		
2000円	5	1	10000円		
合 計		250	283000円	264	337500円

カンパ

1989年度

1800円*1口 = 1800円
 2660円*1口 = 2660円
 5000円*2口 = 10000円
 10000円*2口 = 20000円
 13000円*1口 = 13000円

1990年度

4000円*1口 = 4000円
 5000円*1口 = 5000円
 10000円*1口 = 10000円

合 計

47460円

合 計

19000円

支出の部

- 会議費 保存会幹事会とプロジェクトチームとの会合
 事務費 事務用品、封筒、コピー代など
 印刷費 会報、総会案内、見学案内などの印刷
 通信費 会報の郵送、幹事会の通知など
 資料費 松代大本営のビデオ
 謝 礼 地下壕出入口の地主の方への御礼

1991年度予算

(単位は円)

	1991年度予算	1990年度決算	備 考
収入の部			
会 費	284000	337500	1000円×284人
カンパ	0	19000	
利 息	0	11163	
繰越金	410439	186303	
合 計	694439	553966	
支出の部			
会議費	10000	1280	各種会合費
事務費	40000	26952	封筒，コピー代等
印刷費	450000	32475	会報，パンフレット等
通信費	150000	72999	会報，各種郵送代等
資料費	10000	3860	書籍・ビデオ等
謝 礼	20000	5961	地権者・講演者等へ
予備費	14439	0	
合 計	694439	143527	
差引残高 計	0	410439	

〔補足説明〕

収入の部の会費収入については、1990年度の会員納入者が264名で、その後の新入会員が20名（4月9日現在）であるので、 $1000\text{円} \times 284 = 284000\text{円}$ とした。

支出の部で、事務費・印刷費・通信費が昨年度の予算・決算額に比べて増えているのは、今年度に署名・請願活動をする必要があるかも知れないからである。特に、印刷費45万円のうち40万円は、パンフレット代（200円×2000部）である。会員には全員無料配布し、残りは1部300円で頒布し保存の会の収入とする。謝礼は地権者の方や、講演会の講師の方に対するものである

第3回総会アピール

日吉台地下壕保存の会が結成されて、はや2年が経ちました。この間、世界の情勢は激動し、東西の冷戦が終わり、東側世界に民主化の波が押し寄せ、ついにベルリンの壁もなくなりました。そして、人々は、今度こそ世界に真の平和がやってくるかに見え、期待を膨らませました。

しかし、世界の多くの人々の期待は裏切られ、湾岸戦争が起こりました。短期間に戦争は終わりましたが、この戦争のもたらしたものの大さに私達は目を向けないわけにはいきません。20万人ともいわれる人々が死にました。前線で戦い、傷つき死んだ人の多くは、貧しい人達でした。イラクでは、まだ内戦が続き、クルド族を始め、多くの難民が、寒さと飢えと医療品の不足で、子供・老人など弱いものから毎日多くの人々が死んでいきます。また、クエートでは、500本以上の油井が破壊され炎上し大気が汚染され、ペルシャ湾では流れ出た原油で海が汚染され、環境破壊が深刻になっています。

戦争は、多くの尊い命を犠牲にするばかりでなく、大切な資源のムダ使いと環境破壊の最たるものでしかありません。このような戦争を見るにつけ、私達の運動がますます必要であることを痛感します。私達は、戦争を知らない世代に太平洋戦争の真実と実相を伝えていかなければなりません。

横浜市は、太平洋戦争で大きな惨禍を受けたにもかかわらず、その跡をとどめるものは地上には殆どありません。日吉の丘の下に眠る旧海軍連合艦隊司令部跡の地下壕も、いま残さなければ、太平洋戦争当時の激動の昭和史を語る構築物は殆ど無くなってしまうでしょう。

私達は、こうした歴史的な貴重な遺産を、史跡として、また戦争と平和を考える学習の場として、現在及び後世の人々のためにぜひ残したいと思います。

そのために、私達は、これからも日吉台地下壕の整備と、保存・公開の実現に向けて、粘り強く運動を開いていくことを第3回総会の名において宣言します。

1991年4月20日

日吉台地下壕保存の会第3回総会

← 2ページからつづく

間めぼしい進展はありませ
んでした。朝鮮人労働者の
当時の実態もまだ解明され
ておりません。しかし、最
近何人かの韓国の方々との
連絡がつき話を始めており
ます。全国各地には三千數
百箇所（神奈川には千数百
箇所）に地下壕があるとい
われ、ときどき各地の地下
壕が話題になり、新聞やテ
レビで話題を呼んでいます。
これら地下壕を調査し
ている人々とも連絡を取り、
私達の調査活動を一層進め
ていく必要があります。全
国各地の関係諸団体から、
最近様々な資料が送られて
くるようになり、情報交換
も盛んになり、連帯の輪も
広がってきました。

最後に、日吉台地下壕の
保存についての進展状況を
述べたいと思います。会報

北区役所区政推進課では、
「日吉台地下壕利用計画策

定調査報告書」を横浜市に
提出しましたが、これは
「具体的に何をやつてほし
い」というものではなく「こ
のような問題がありますよ」
といったようなものである
ようです。区政推進課で申
請したと聞いている映像や
活字による記録の保存のた
めの予算も下りなかつたよ
うです。市では今のところ
日吉台地下壕の保存につい
ては、何の関心も示してい
ない状況です。港北区には
精一杯やつてきて頂きまし
たが、区でやれることはこ
の辺までが限界であるとの
事です。これから先は、や
はり私達が中心になつて横
浜市に働きかけるか、私達
自身が資金を集め地下壕を
整備し保存・公開していく
以外に方法がありません。

私達は、地域の人々に呼び
かけ、保存運動を活発に
進めると共に、市長、市議
会議長などに対し、陳情
・請願・署名活動を進めな
ければならない時期にきて
います。

いるのではないかと思いま
す。今後は、会員一人一人
にいろいろとお願ひするこ
とになるのではないかと存
じますが、今後ともこれま
で以上に御支援・御協力を
お願い致します。これで一
九九〇年度の活動報告を終
わります。

一九九一年度反
対運営委員会
幹事会長 永戸多喜雄
副会長 薄井芳夫
田辺昇
鮫島重俊
谷栄
小園優子
茂呂秀宏
亀岡敦子
皆川法治
梅沢滋隆
比留間淳一
久我俊二
林栄美子
白鶴邦子
谷藤基夫

事務局長 寺田貞治
馬養貞子
加賀谷欣之助
大西章
林ちづ
中沢正子
森山高行
天野喬子
秋本謙三
佐藤林平
顧問 事務局長
寺田貞治
馬養貞子
会計監査
森山高行
天野喬子
秋本謙三
佐藤林平
活動方針
一九九一年度
保存の会が結成されて、
早くも二年が経ちましたが、
この間、世界の情勢は目ま
ぐるしく変化しました。東
西の冷戦が終わり、ベルリ
ンの壁もなくなり、これが
ら真の平和がやつてくるか
に見え、世界の人々が期待
を大きく膨らませていまし
た。

しかし、この期待は脆く
も裏切られ、湾岸戦争が起
こりました。この戦争はす
ぐ終わりましたが、多くの

問題を私達に突きつけました。日本の戦争体験が風化していく中で、湾岸戦争は改めて全ての人々に「戦争と平和について」考え方させたのではないでしょか。国際社会に対しても、日本は如何に対応すべきか、厳しく問われています。これには日本が太平洋戦争について、厳しく反省した上でなければ、如何なる対処も世界の信頼は得られないでしょう。その意味で、私達の運動がますます重要なつてきているのではないかと思ひます。

平和な世界を築き維持していくには、戦争を知らなければなりません。そのために、太平洋戦争の眞実と実相を正しく伝えていくには、現状を打開するため、特に、市への働きかけを、どうしても進めていかなければなりません。

い世代に、太平洋戦争の眞実と実相を正しく伝えていくには、現状を打開するため、特に、市への働きかけを、どうしても進めていかなければなりません。

市を動かすには、今までとは比較にならないほど運動が必要となります。時期をみて、市長や市議会議長への陳情・請願・署名活動などを行う必要がありますが、その時には、吉田地下壕から見える太平洋戦争の眞実と実相を知つて頂き、後世に伝えていかなければなりません。

- 今後の具体的活動としては、
 一、調査活動を更に活発に行う。
 二、見学会・講演会・など
 様々な催しを活発に行う。
 三、会報を発行し、パンフレットを作り、PR活動を活発化する。
 四、全国の関係諸団体との交流を深め、情報交換を活発化する。
 五、市に働きかけ、時期を見て市長や市議会議長に陳情・請願・署名活動を行う。

会費は、個人一口一〇〇〇円、高校生以下一口五〇〇円、団体一口二〇〇〇円で、それぞれ一口以上です。
 直接事務局にお届け頂いても、郵便振込でも結構です。
 お預り申します。

一九九一年度の会費を、まい方は、なるべく早くお納め下さいますようお願い申し上げます。



横浜二一六二九九七
 日吉台地下壕保存の会
 なお、一九九〇年度の会費未納の方は、一九九〇年度分も同時にお納め下さい。

一九九一年度 会費納入についての お願い

編集後記

◆今年は、選挙と重ならないよう少し総会を延ばしたため、余裕を持って準備ができた。

◆総会も四一名の出席があり、総会もスムーズに進行し、議案もすべて可決された。

◆松代大本営のビデオはかなりの反響があつた。
 また、「登戸研究所」の講演も、資料を用いての熱心なお話に、みんな真剣に耳を傾けていた。

◆見学会の感想など多くの原稿を頂きましたが、今回は総会の報告で紙面が一杯なので次号に廻させて頂きます。

◆会員も三七八名となり保存運動を理解する人も増え、盛り上がりを見せております。

◆三年目を迎え、今年度は更に飛躍の年とすべく皆さんの御支援と御協力ををお願い致します。